【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成22年9月9日(2010.9.9)

【公表番号】特表2009-544624(P2009-544624A)
【公表日】平成21年12月17日(2009.12.17)
【年通号数】公開・登録公報2009-050
【出願番号】特願2009-521013(P2009-521013)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　36/18　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　36/23　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　36/28　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/4425　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/70　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/32　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/34　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/36　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/06　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 1/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/06　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　35/78　　Ｃ
Ａ６１Ｋ　35/78　　Ｎ
Ａ６１Ｋ　35/78　　Ｔ
Ａ６１Ｋ　31/4425
Ａ６１Ｋ　 9/70　４０１
Ａ６１Ｋ　47/32
Ａ６１Ｋ　47/34
Ａ６１Ｋ　47/36
Ａ６１Ｋ　 9/06
Ａ６１Ｐ　29/00
Ａ６１Ｐ　 1/02
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　37/06

【手続補正書】
【提出日】平成22年7月20日(2010.7.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】

経粘膜伝達リンスであって、:
(i)セイヨウニワトコの活性物質又は(ii)セイヨウニワトコの活性物質及び１以上のツボクサ又はエキナセアの活性物質を含む、有効量の適切な草本生理活性物質成分; 及び
抗菌的有効量の四級アンモニウム界面活性剤を含む前記リンス。
【請求項２】
さらに、前記組織を被覆し、前記抽出物を封入するのに有効なポリマー又はポリマー混合物を含む、請求項１記載のリンス。
【請求項３】
四級界面活性剤が１-アルキルピリジニウム塩を含み、前記アルキルがＣ８-Ｃ３６である、請求項１及び２のうち１項記載のリンス。
【請求項４】
１-アルキルピリジニウム塩がセチルピリジニウム塩である、請求項１及び２のうち１項記載のリンス。
【請求項５】
リンスがさらに粘膜表面上に粘膜接着性コーティングを形成する、請求項２記載のリンス。
【請求項６】
リンスが、可逆的に約３５℃でゲルを形成し、２５℃で、より液体様の状態を形成する、請求項２記載のリンス。
【請求項７】
セイヨウニワトコの活性物質を含む草本生物活性物質が、植物活性固体の５１～１００質量％を構成する、請求項１及び２のうち１項記載のリンス。
【請求項８】
第２の植物抽出物が植物活性固体の１～５０質量％を構成する、請求項７記載のリンス。
【請求項９】
粘膜又は近接する組織の適応症の治療又は寛解の為の請求項１～８いずれか1項に記載のリンス。
【請求項１０】
前記治療又は寛解が罹患組織における又はそれに近接する粘膜にリンスを定期的に適用することを含む請求項9記載のリンス。
【請求項１１】
前記治療又は寛解が、(i)セイヨウニワトコの活性物質又は(ii)セイヨウニワトコの活性物質及び１以上のツボクサ又はエキナセアの活性物質を含む適切な草本生理活性物質成分を含む、フィルム、パッチ又は粘着性固体製剤を、粘膜の一部にさらに適用することを含む請求項９又は１０に記載のリンス。
【請求項１２】
前記適応症が化学療法に付随する粘膜炎である、請求項９～１１いずれか1項に記載のリンス。
【請求項１３】
(i)セイヨウニワトコの活性物質又は(ii)セイヨウニワトコの活性物質及び１以上のツボクサ又はエキナセアの活性物質が抗炎症性量を含む、請求項９～１２いずれか1項に記載のリンス。
【請求項１４】
前記適応症が歯肉炎である、請求項９～１１いずれか1項に記載のリンス。